

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームが街の中心に位置しており、近くには公園やスーパーもあるため散歩や買い物に適しており、利便性に優れている。 こういった環境の中で様々な活動や体験をしていただきたいという思いから、「元気に過ごす住まい」という理念を掲げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の時には全職員で確認を行い、個人個人の名札に理念を入れ、常に理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。 利用者の意向や状況に応じてその日をどのように過ごしていただくのかを考えながら支援し理念の実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご入居時に重要事項と共にホームの方針・理念について説明を行っている。 来訪者にも分かりやすいようホーム内にも色紙を掲げたり、グループホーム便りを活用したりしている。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	時折、地域の方が訪ねて来てくださったり、お野菜やお漬物を持って来てくださることがある。 また近くへ買い物や散歩へ行ったり、回覧板を持って行ったりすることで近隣の方たちとの挨拶を交わしている。		今後もより良い関係が築いていけるように、こちらから出かけていったり、遊びに来ていただけるよう呼びかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加させていただき、回覧板やごみ当番なども参加させていただいている。 時折地域の老人会の活動に参加させていただき交流をもたせていただいている。		地域の方に気軽に参加していただけるような行事を開催していきたい。

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は行っていない。		介護や医療に関する相談や勉強会等を開催していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット会議で評価の意義について話し合い、自己評価表の作成は全職員で取り組み理解を深めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーの方の意見や要望に関しては、次回の会議までに検討、改善し報告できるように心掛けている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外にも定期的に市町村担当者の方の所へ訪問し、ホーム便りなどを持参して事業所の活動報告を行っている。 事業所が抱える課題(研修や運営に関することなど)について随時、相談を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	会議の際に全職員で制度についての理解を深めている。 事業所にパンフレットを設置し、状況に応じて必要であるご家族に制度についての情報提供を行っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝夕の申し送りの際に、情報交換を行い虐待の防止に努めている。		高齢者虐待防止関連法について、勉強会や研修に積極的に参加していきたい。

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書の十分な説明を行い、疑問点に関しては納得し、安心して入居いただけるようその都度説明を行い同意を得るようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の苦情や不満に対しては、会議などで話し合いを行い改善に努めている。		利用者の方が苦情や意見を出しやすい場の提供に努めていきたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時には、利用者の方の状況について報告を行うように心掛けている。 状態の変化・問題がある場合などにはその都度連絡を取っている。 ホーム便りを発行し活動報告を行っている。		職員の異動に関しては今後ホーム便りや家族会等で報告していきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議や家族会で不満や苦情・意見が出せる機会を設け、出された意見に関しては会議等で全職員が共有できるよう心掛けている。 エレベーター前に意見箱を設置している。 入居時にはホーム内の苦情相談窓口と苦情に関する公的機関があることをお伝えしている。		意見や苦情があった場合には職員間の連絡ノートに必ず記入するようにし、全職員が情報を共有し、統一した対応が出来るように努めていきたい。 定期的に意見や要望に関するアンケートなどを作成し、ご家族へ協力していただき、サービスの向上に努めていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議の際には、職員一人一人の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	全利用者のかたのケアを全職員が対応できるように努めており、状況に応じて柔軟な対応が出来るように配慮している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入る際には、利用者の皆さんの前できちんと紹介を行い、利用者の方にも自己紹介をしていただいている。 パートのスタッフを配置したりと人員配置に配慮している。		職員が退職した場合にも利用者やご家族への説明を心がけていきたい。

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては年齢や性別を理由に対象から排除することではなく、介護に関心や理解のある方を採用対象としている。 職員の能力や資格などを考慮しながら勤務調整を行っている。		
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や朝夕の申し送りの際に、職員間で確認しあっている。		人権教育に関する勉強会の開催や研修への参加を積極的におこなっていきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で行われている研修会に参加し、研修内容については報告を行い、職員全員で共有している。 ユニット会議の時などに介護に関する勉強を取り入れている。		ホーム内外での勉強会は定期的ではないため、今後は積極的に参加を促していきたい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互の訪問や見学はあるもののその後継続した交流は行っていない。		市のグループホーム部会に参加させていただき、交流を深めていきたい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場に出て不安や悩みを気軽に相談できるような関係作りに努めている。		休憩室の早急な整備と、福利厚生の充実に取り組んでいきたい。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場の状況の把握を行っている。 提案を積極的に受け入れ向上心につながるように努めている。		今後は職員の資格取得などについても助成していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談があった場合にはご本人にお会いし、ゆっくりとお話が出来るような機会をもつことを心がけている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の考えや求めていることを理解するためにも、ゆっくりとお話を伺うよう配慮している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要なケアを見極め、状況に応じて他のサービスの提案をさせていただいたりしている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族にホームを見に来ていただき、雰囲気を感じていただいている。 状況に応じて、日帰りや宿泊の体験入居を行っていただき、徐々にホームに馴染んでいただけるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お掃除の方法や食事のこと、昔のお話をお聞きする中で利用者の方から教えていただくことが多くあり、そういう場면을説教的に持つことで信頼関係を築けるよう努めている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に職員は家族の一員であるという思いで関わっている。 ご家族には日々の状況をお伝えしたり情報の共有に努め会話を多くもつように心掛けている。		

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等にはご家族の参加を呼びかけている。 遠方のご家族へもホーム便りを送らせていただき、活動報告を行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が途切れることのないよう、知人の方にも協力していただいている。 友人・知人の方が気軽に来ていただけるよう、訪問しやすいように配慮している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の方々の関係をスタッフ全員が把握し、楽しく過ごせるように配慮している。 状況に応じて、利用者間にスタッフが介入しコミュニケーションが円滑にいくよう働きかけている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在は行っていない。		契約終了後も、状況に応じて行事等への参加を呼びかけたり、相談に応じたりできる関係を築いていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人がどのような暮らしを望んでいるのか、ゆっくりとお話しする機会をもつようにしている。また日々の暮らしのなかからご本人の思いを理解するよう努めている。 ご家族や関係者からも情報を得るように心掛けている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの生活歴や習慣等を伺い、ご本人への理解を深めるよう努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活のリズムを把握するよう努め、出来ることに目を向けるよう心掛けている。		

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見や要望を伺い、計画に反映できるように努めている。 利用者が主体となっている計画であり、わかりやすい言葉で書くように努めている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて、会議や申し送りの際などに職員間で話し合いを行い計画の見直し、変更を行っている。		職員間だけの話し合いではなく、ご本人やご家族の要望や意見を取り入れる機会をもつように心掛けたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のファイルにケアの実践、結果、職員の気付き等を記入し、職員が共有できるようにしている。		介護計画に沿って、より具体的な記録の記入を行っていききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて通院や特別な外出などには、柔軟に対応出来るように努めている。 緊急時や希望時の外泊にも対応できるよう努めている。 24時間医師・看護師と連絡が取れるようオンコール体制をとっている。		
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の公民館へ出かけ、お話をさせていただいている。 消防署の方に来ていただき、消防訓練のお話をさせていただいた。		ボランティアの協力を積極的に呼びかけていきたい。 地域の小学校や幼稚園と交流を持ち共に楽しめる行事などにも取り組んでいきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて、理美容サービスを利用している。		

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホームの活動報告は定期的に行っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を尊重し、以前からのかかりつけ医で医療が継続して受けられるよう配慮している。 新たに協力医療機関がかかりつけ医となる場合には十分な情報を提供できるよう努めている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の方それぞれのかかりつけ医により、認知症の診断・治療を受けており、特別な専門医との連携は現在行っていない。		認知症に詳しい医師との連携が図れるよう努めていきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、利用者の健康管理を行っている。 24時間相談が出来るようにオンコール体制をとっている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、病院関係者との情報交換を密に行い、定期的に訪問を行うように心掛けている。ご家族とも情報交換をしながら安心して退院できるように心掛けている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に急変時の対応について話をしたり、状況の変化に応じてご家族の意向を伺うようにしている。		終末期や急変時の対応についてかかりつけ医とも話し合いを持つよう努めていきたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期における対応について可能なこと、困難なことをご家族に説明を行っている。		状態によって、今後かかりつけ医との十分な話し合いを持ち、検討していきたい。

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在は行っていない。		これまでの暮らしが継続できるよう十分な情報提供を行い連携をとっていきたい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時にはご家族に個人情報に関する取り扱いについて説明を行い、同意を得ている。 利用者を尊重した言葉かけや対応に心掛けている。 個人情報が書かれた書類はシュレッダーにかけるようにしている。		勉強会等を行い、個人情報保護法に関する理解を深めていきたい。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の方の状態に応じて、自己決定ができるような声かけの方法に配慮し、ご自分で決められたこと、希望されること(例えば食べたい・外出したいなど)には柔軟に対応できるように心掛けている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れにとらわれず、一人一人のペースに合わせて対応するようにしている。食事時間や外出など本人の希望や状態に配慮しながら対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望や状況に応じて、理美容サービスに来ていただいたり、美容室にいたり臨機応変に対応している。 身だしなみやおしゃれを楽しめるような声かけを心掛けている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、お菓子作り、配膳、後片付けなど出来る限り利用者と共にしている。 定期的に、利用者の要望に沿った献立や旬のものを取り入れた献立を作成している。 定期的に外食の日・出前の日を取り入れている。 職員も同じテーブルで食事をとるようにしている。		ホーム内で育てた野菜などを献立に取り入れていきたい。

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の嗜好品について理解し、希望に応じて買い物にでかけるなど柔軟に対応している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を記入して個人個人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。利用者の状態に合わせてパットを活用したりトイレ誘導を行っている。特にパットやオムツを使用している場合には下着に移行できるような支援を心掛けている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な曜日は決まっているが、本人の希望時や状況に応じて満足していただけるように臨機応変に対応している。 一人一人の状況や習慣に応じてご本人のペースで入浴していただいている。		温泉への外出を行事の中に取り入れていきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活の習慣や状態を把握し、活動を促したり、休息を取って頂いたりし、生活のリズムを整えるように配慮している。 なるべく睡眠薬を使わず眠っていただけるよう状況に応じて配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の方の得意なことや趣味の活動を把握し、楽しみとなるような活動に取り組んでいる。(お裁縫や料理、ぬりえなど) 掃除や米とぎ、食器洗いなどの役割をもっている。		利用者の方と一緒に行事の計画を立てたり、新しい楽しみを発見できるような支援を心掛けていきたい。 特定の利用者だけではなく皆様に楽しみや役割を持っていただけるよう働きかけていきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や状態に応じて自分でお金を所持し管理されており、買い物等自由に行えるよう支援している。 事業所が管理している場合は外出の際などにはご自分で払えるよう支援をしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方の希望に応じて散歩や買い物へ出かけたり柔軟に対応している。 また自己決定の難しい利用者の方も積極的に外出していただくよう心掛けている。		

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の方のどこかに行ってみたいというような話は職員がきちんと把握し、それが実現できるよう心掛けている。 遠方への外出も、前もって計画をたて調整を行い、柔軟に対応している。		外出の支援について、ご家族からも要望が聞ける機会を設けたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングに電話をおいており、利用者の方が希望される場合には使用していただいている。 年賀状を出すための支援を行っている。 基本的に届いた手紙はご本人にお渡しするようにしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪時には言葉かけを行ったりゆっくり過ごしていただき、また次回来やすいような雰囲気作りに心掛けている。 面会時間の設定はしているが状況に応じて柔軟に対応している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議の際に身体拘束廃止となる具体的な行為について話し合い全職員の認識を図っている。		身体拘束に関するホーム外への研修にも積極的に参加していきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階の入り口は施錠していない。 2階ホームの入り口に関しては必要に応じてエレベーターを止めたり、センサーを利用したり、一時的に鍵を使用する場合もあるが、基本的には鍵をかけず利用者の方の見守りを十分に行い自由に行動できるように配慮している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜とも職員は記録等の作業をリビングで行い利用者の方の状況を確認し安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者が必要なものに関しては身近な場所に置いているが、包丁などは夜間は鍵のかかる場所に保管するようにしている。		

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書を活用し、全職員で情報を共有している。 誤嚥の可能性の高い利用者の食事や水分摂取の工夫、服薬の方法など事故を未然に防ぐよう努めている。		ヒヤリハットや事故報告書を読むだけでなく、会議等で職員全員で話し合い、事故防止への理解を深めていきたい。 行方不明時や火災発生時の対応について地域の方とも協力し取り組んでいきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の研修に参加したり、ホーム内では会議の際に急変時の対応について勉強し理解を深めている。		定期的に蘇生術や救急時の対応についての研修を実施していきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方に来ていただき、災害時のお話をさせていただき理解を深めている。 全職員で避難時の動き、誘導の方法について確認している。 地域の方に災害時の対策について理解を求め、協力体制を築いている。		消防署の協力を得ての避難訓練の実施を定期的に行っていきたい。(11月予定)
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人一人に起こりえるリスクについては、ご家族へ説明を行った上で、状況に応じてご家族やご本人が望まれる方法を尊重し相談しながら対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行うことで、一人一人の状態を把握しているため、体調の異変や変化に気付きやすく、またそういう場合には速やかに管理者・看護師への報告を行い対応している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の方が飲まれている薬に関しては全職員が把握できるよう看護師から説明を行ったり、薬剤提供書に目を通すように努めている。間違いなく確実に服薬できるように薬には名前と日付を記入し、一人一人の状態に応じた支援を行っている。		状態に応じて利用者の方が自分で服薬の管理が出来るよう支援していきたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の把握や食事の工夫に努めている。 体を動かしていただくために、散歩や運動を働きかけるよう努めている。ヨーグルトや牛乳を飲んでいただいたり食べるものにも配慮している。		

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後には歯磨きの声かけを行い、状態に応じて職員が介助を行っている。 歯科医師と連携をとり、ホームに来ていただき一人一人に沿ったブラッシングの方法について指導していただいている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人のファイルに食事や水分の摂取量の記録を毎日行い、職員全員で情報を把握している。 宅配のサービスを利用しており、献立は管理栄養士が作成したものである。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルを作成し全職員が把握できるよう努めている。 洗面所に手洗いの方法についての写真を貼り、励行している。		感染症に関する勉強会を行い、理解を深めていきたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁・まな板の消毒を毎日行い、実施後はサインをし確認している。 毎食後、キッチンの清掃を行い、実施後はサインをし清潔を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の玄関にはプランターや観葉植物、季節に応じた小物などを配置し親しみやすい雰囲気作りを心掛けている。 また手作りの掲示板を作成し、ホーム便りや案内を掲示している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はカーテンを開け、状況に応じて窓を開け風を通し、自然の光が入るよう心掛けている。 リビングの飾りつけは入居者の方と共に行い、常に居心地の良い空間であるよう心掛けている。		

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを配置し、テレビを見たり、新聞を読んだり、ゆっくりと語らえるような空間をつくっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ、ご本人が使い慣れたものを持ち込まれておりご自身が使いやすいよう配置されている。 お箸や御椀・お湯呑みなどはご本人の使われていたものや、選んで購入されたものを使用している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	お部屋やリビングには温度計・湿度計を置き、室温の管理を行っている。 利用者の状態に応じて冷暖房の調整を行っている。定期的に空気の入替えを行い換気している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室は手すりの位置を見直し、付け足すなどの改善を行った。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋の入り口には表札を揚げ、ご自身の部屋が分かるよう配慮している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはお花や野菜を植えており、利用者の方が成長を楽しめるよう工夫している。		1階の庭に、椅子を配置したりくつろげるようなスペースを確保したい。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

グループホームじゅらくだい(2Fユニット)

番号	項 目	取 組 みの 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない